

春風秋霜

12月号

平成27年12月1日

島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 島田市民憲章について

わたしたち島田市民は

しぜん 文化 そして 人権を 尊びます

まつり スポーツ そして 子育てを 楽しみます

だれもが 歴史 産業 そして 協働を 讃えます

しごと 学習 そして 健康づくりに 励みます

みんなで創ります わたしたちのふるさと わたしのまち島田

これは、市民憲章の後段部分です。尊ぶもの・楽しむもの・讃えるもの・励むものを掲げ、わたしの町と主体的な個人の意識を求めています。この市民憲章の意図するところを、子供たちの発達段階に応じて、指導をお願いいたします。

2 「国際的な感覚とスキル」について

市町教育委員研修会において、ダニエル・カールさんの「国際的な感覚とスキル」というテーマの講演を聞きました。氏は、これからの国際社会における日本人の身に付けなくてはならない感覚とスキルは、日本人の感覚や日本語の使い方が外国人とは違うことを認識することだと言います。

日本人は、相手の気持ちを推測することを大切にし、日本語もそのように進化しているそうです。そのため、日本人は主語のない文章を平気で使うし、否定的な言葉を使いながら肯定的な意味の会話をするが、そのような文化は外国には無く、文法を重んじる外国人にとって、日本人の会話は混乱するだけで意味が伝わらないことがあると言うのです。

日本人がよく出がけに使う「行って来ます」を外国人が聞くと、『誰が行くの?』『どこに行くの?』『行くの? 来るの?』となるのだそうです。自分の妻を紹介する時、『愚妻です』などと紹介すれば、その通りに理解してしまうそうです。

このように、国際化を見据えた時、英語教育の充実だけでなく、日本語の使い方を国際化しなくてはならないと思います。まずは、単語だけの会話や発表ではなく、主語のある文章による発表を大切にしなければなりません。

3 全国学力・学習状況調査の結果公表について

各学校での調査結果の分析および保護者向け報告書の作成ありがとうございました。各学校とも丁寧な分析がなされ、学校が取り組む内容や家庭への依頼内容が明確になっていると思いました。特に、保護者にとって分かりやすい表現に配慮した学校が多かったことに感謝します。

最近の問題は、新しい学力観に立った問題が多く、単に教科書を教えるのでは力がつかないと思います。全ての教員が全ての問題を解いてみる必要があると思います。そして、どんな力をつけるべきかを全教員が共有し、教科に関らず授業改善に取り組まなくてはならないと思います。特に留意すべきことは、平成25年度の小学6年生だった現中学2年生の学力保障です。彼らの国語A全国最下位という汚名は、静岡県教師の責任で払拭しなくてはならないと思います。よろしく願いいたします。

4 「税に関する作品」表彰式から

1月23日（月）に「税に関する作品」表彰式が、島田税務署管内（島田市と榛原郡）の首長と教育長が参加する中、夢づくり会館で行われました。表彰式では、児童生徒約1700人の応募作品（作文・習字・ポスター・絵手紙）の中から選ばれた優秀な作品が表彰されました。

島田市内では、習字の部で県納税貯蓄組合連合会金賞に大川涼介さん（六合小）と島田市長賞に八木 雅さん（島一小）、ポスターの部では島田税務署長賞に岡林夢果さん（島一小）と島田市長賞に貞石愛友さん（島一小）、作文の部では島田市長賞に花澤優月さん（島一中）が輝くなど、総勢51人が受賞しています。この他にも、島三小・相賀小・初倉南小が多くの作品を応募した学校として感謝状を贈呈されました。島田市外では、習字の部の池田優冴さん（相良小）が名古屋国税局長賞を受けています。昨年度は全国表彰を受けた子供もいるなど、この事業は大変大きな事業ですので、来年度の募集には多くの子供の参加を期待しています。

5 地域防災訓練参加のお願い

12月6日（日）に地域防災訓練が行われます。緊急速報メールが携帯電話に強制的に配信されたり、川根中学校に県警のヘリコプターが飛来したりと、これまでよりも実践的な訓練が行われます。中学生の中にはジュニア防災士を目指している生徒もいると思いますので、各学校とも児童・生徒が訓練に参加するよう働きかけをお願いします。

肘 か け 椅子

孕石 晃 文化課長

『仕事に向き合う気持ち』

最近、ペンディングという言葉思い出した。仕事が順調に進まず、とりあえずペンディングといって先延ばしにしてしまったものがある。そうしたものが積み重なっていくことの行く先は、容易に想像できる。

このペンディングと向き合うことに、やりがいを感じる人に出会った。それは、福岡県宗像市からやって来た広報時代の仲間である。彼は、新しい課に異動すると、まず「ペンディングになっている案件はないか」と尋ねるといふ。本来なら、誰も手を出したくないものであるが、それを解決していくことに喜びを感じるという。ペンディングさえもポジティブに考えることで、仕事が楽しくなるという。

酒の勢いで話がヒートアップしていくと、こんな話も熱く語った。

用地交渉を任された当時、難攻不落の相手が二人残っていた。一人に対しては毎朝、玄関先で待っていて、無視されてもあいさつをし続けた。もう一人は、行きつけの店の情報をつかむと、彼もまた毎晩その店に行って一杯飲んで帰った。交渉相手は、見向きもしてくれないが、そんな日が何十日も続くと、「なんでそこにいるんだ」と声を掛けてくれる。これが突破口となり、話すチャンスが生まれたという。突破口を抜けた後の結末は、言うまでもない。交渉を成功に納めることができたという。彼はそこまで「熱い男」である。

どこの役所にも「熱い男や女」がいる。みんな仕事を楽しんでいる。私も、仕事は楽しくやらなければつまらないと思っている。人と人とのつながりは、楽しむための考え方、そして遊び心を教えてくれた。私の宝物は、出会ってきた仲間たちであり、私の人生のコアな部分は、彼らによって形成されていることに、改めて気付かされた。これからも人と人とのつながりに感謝し、大切に育んでいきたい。